

明日の北九州の環境産業ビジョンを描く
～ 北九州循環経済研究会 最終報告会 ～

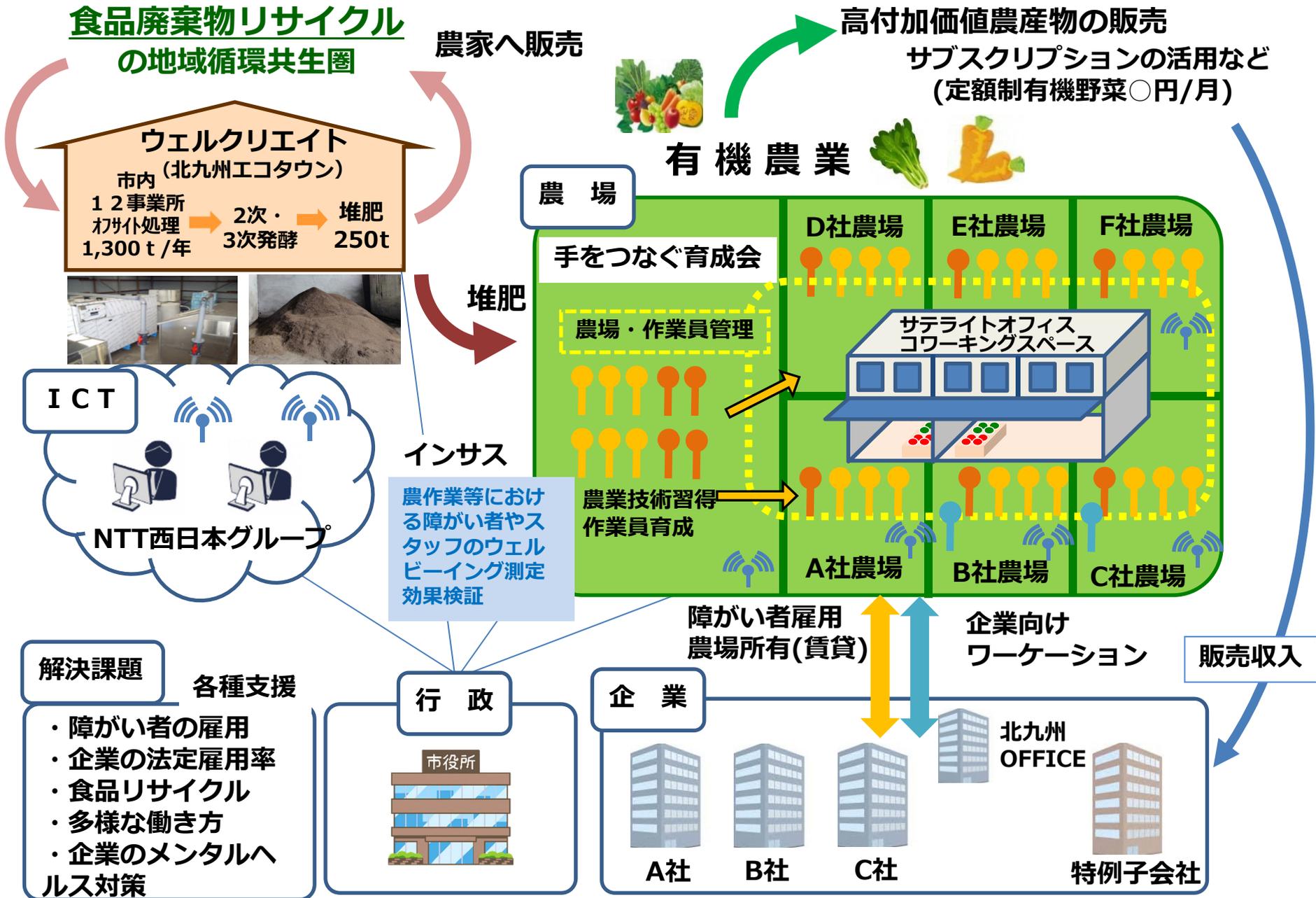
自然循環

北九州環境ビジネス推進会代表幹事 松尾康志

地域のありたい未来の実現のための「事業のタネ」

<p>事業名</p>	<p>(自然循環) 農業×福祉×環境×企業×行政×ICT連携の持続可能な自然循環 ビジネスモデルの構築</p>		
<p>概要</p>	<p>(1) 取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業(オーガナイザー組織による持続可能な事業計画づくり)委託事業を活用 ・ 社会福祉法人、企業が連携して「SDGs ソーシャルファーム」を運営 ・ 社会課題の同時解決 障害者・高齢者雇用拡大、企業の法定雇用率達 新たな農業の担い手育成 食品リサイクル、企業立地など <p>(2) 取組主体 (社福)北九州市手をつなぐ育成会、 (株)インサス、(株)ウエルクリエイト、 (株)NTTビジネスソリューションズ 北九州市立大学、SDGs 経営サポート</p>		<p>SDGs ソーシャルファーム栽培畝イメージ</p>
<p>課題 ボトルネック</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ サテライトオフィス, コワーキングスペース等ビジネスモデル立ち上げに必要な資金や補助金 ・ 企業誘致 	<p>力を借りたい 人物・企業像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北九州市 ・ ICTによる支援企業

SDGsソーシャルファーム（農福環企行ICTエコシステム）



SDGsソーシャルファームの概要

【目的】

- 障がい者の一般就労の機会の拡大

【事業内容】

企業に対し、

- 農場を提供し障がい者の雇用の場として活用
- 農業生産、販売その他の支援
- 障がい者の採用や、定着・継続支援
- ワークーションや研修で利用できるサテライトオフィスの提供

SDGsソーシャルファームの概要

【その他の特徴】

- 市内等で発生した食品残渣によるリサイクル肥料による有機農業
- 太陽光発電、蓄電池を活用し再エネ100%電力での運営
- NTTグループと連携した野菜のサブスクリプション販売や、ICTを活用したハイテク農法も導入
- 障がい者やスタッフの幸福度(ウェルビーイング)の向上
- 農作業を通じたヘルスワーケーションの提案

企業の課題

【障がい者雇用率の達成】

- 多くの企業が2.3%を未達成
- 社内での障がい者雇用の職場の確保が困難

【人材確保、社員の健康維持】

- IT系を中心に、メンタルに不安のある社員が増加
- 地方で働くことを希望する社員の増加

その他の課題

【環境】

- 食品廃棄物の減量・リサイクル
- 再生可能エネルギーの導入

【農業】

- 農業従事者の確保（耕作放棄地の活用）

【地方創生】

- 関係人口の拡大
- 高齢者の雇用



(仮称)SDGsソーシャルファーム青葉台プロジェクト 2021.4 (株)川原建築設計工房